

市町名	沼津市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 27 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	当時、片浜小PTAを務めていたコーディネーターが、放課後子ども総合プラン運営委員会に参加したことがきっかけ。実施の検討にあたり、市内の放課後子ども教室を見学した際、片浜地区の連合自治会長も見学に来ており、早期の立ち上げに至った。
--------	--

活動名	片浜小放課後子ども教室			
実施箇所名	片浜小放課後子ども教室運営委員会			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子どもの居場所づくり、地域交流		
	開催日数等	月1回程度	実施場所	小学校体育館、地区センター等
	参加児童・生徒数	約70人	ボランティア数	約30人
	<p><概要・特徴></p> <p>月1回程度、放課後にイベント（各種スポーツ体験教室、エコキャンドル作り、野菜の収穫等）や自由遊び等を実施している。</p> <p>地域や地元企業等と連携したイベントの開催により、地域をつなぐ出発点の役割となり、地域交流を創出している。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域団体や地元企業等にご協力いただき、様々なイベントを開催するとともに、地域の催しへの参加など、相互連携を図っている。 ・「片浜小放課後子ども教室だより」を定期的に発行し、地域住民へ配布することで、効果的な広報やボランティア募集を行っている。 			
	連携先	学校、自治会、地区センター、企業、各種スポーツ協会等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民等、保護者とはちがう大人との関わりを通して、様々なふれあいの機会となっている。 ・地域住民の生きがい、安心した地域づくりなど、支援する側にとっても有用な活動となっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会の活動に携わる組織には1年単位で役員が変わる団体も多いため、コロナ禍で中止となった活動を次年度へ引継ぐことが難しく、今できることを模索し実施するのが大変だった。 ・高齢化など、継続的なボランティアの人数確保が難しい。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名 熱海市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯

家庭の経済状況等により、学習塾に通うことができない子どもに対し、学習機会と場所の確保を行うため。

活動名	熱海市土曜日学習支援事業			
実施箇所名	熱海市内全小中学校対象			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学習支援、地域の人材育成		
	開催日数等	(年間) 小学校 32回 中学校 18回	実施場所	公民館、学校会議室
	参加児童・生徒数	(小) 22 (中) 16 人	ボランティア数	14 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用し、土曜日の学習補充・定着学習や学習方法・学習習慣の支援・援助等を行う。 ・学習意欲があり、その機会に恵まれない子どもに学習内容の補充や定着のため、また学習習慣を身につけるための学習支援を行う。 ・土曜日の午前中に開催し、支援員がサポートをしながら学習ドリルや学校の宿題等に取り組んでいる。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターに元教員や地域人材を活用することで、地域の実情に合った運営を行うことができています。 ・子どもの居場所づくりを促進するため、子どもと距離が近づきやすい大学生等の支援員を積極的に導入している。 			
	連携先	公民館		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で落ち着いた学習環境が確保できない子どもや一人ではなかなか進められない子どもにとって、貴重な学習機会の確保となっている。 ・土曜日の午前中に開催することで、生活の安定にもつながり、学習習慣の確立にも役立っている。 ・地域の方や大学生を積極的に導入することで、子ども達の居場所となっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生だと継続した配置が難しく、年度ごとに人員確保を行わなければならないため、毎年の課題となっている。また、活用できる地域の人材も限られており、今後継続していく上で人材確保が課題になることが想定される。 			
備考				
参考URL				

市町名	三島市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 4 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	主に学校へ通うことが難しい児童生徒に寄り添い、学校復帰や社会的自立を目指すため、平成19年、三島市民生涯学習センター内に三島市教育支援センター『愛称：ふれあい教室』を設置。今年度から「三島市青少年相談室体験学習実行委員会」を組織し、「ふれあい農事体験」事業を開始した。
--------	--

活動名	ふれあい農事体験			
実施箇所名	三島市ふれあい教室 ふれあい体験農園（三島市民生涯学習センター内）			
活動の概要・特徴・工夫	目的	居場所づくり 自立支援		
	開催日数等	通年	実施場所 三島市民生涯学習センター内	
	参加児童・生徒数	30 人	青少年相談室相談員（5名） ふれあい教室指導員（3名）	8 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節の野菜を、種や苗から育て、収穫、試食することを通して、四季を感じたり、不足している体験活動を経験したりする機会を確保する。 ・自宅にこもりがちな児童生徒に対し、外へ出るきっかけを与える。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・育ててみたい野菜を通室生自身に選択させ、植え付けを行う。また、自分で植え付けたものには名札を取り付け、区別できるようにしている。こうすることで、自分の苗が育っていく様子に関心を持ち、楽しく観察することができると考えている。 ・JAの職員を外部講師として招き、農業指導をしていただくことを通して、保護者や学校の先生以外の大人と接する機会を作っている。 ・ふれあい教室に通室する児童生徒とはタブレット端末（三島市からの貸与品）を通して連絡を取っている。これを利用して、農事体験での活躍を写真等も用いながら認め励ますことで、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高めていこうと考えている。 ・収穫したものは、ふれあい教室で食すだけでなく、自宅へ持ち帰り、各家庭でも食べてもらうことで、達成感を味わせたいと考えている。 			
	連携先	富士伊豆農業協同組合、三島市水と緑の課、三島市学校教育課、三島市青少年相談室、三島市民生涯学習課		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・農事体験を楽しみにしている児童生徒が多数いる。 ・農事体験で収穫したものを自宅で調理して家族で試食したり、その様子をタブレット端末を通して報告したりする児童生徒もいる。 ・保護者や学校の先生以外の大人に対しても、自分から関わろうとする姿が見られた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年相談室、ふれあい教室に所属する職員で農事体験に詳しい職員がいる時は良いが、持続可能という視点からも、これらのノウハウをきちんと残していく必要がある。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	三島市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 26 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	西小学校「学校支援地域本部実行委員会」の中で、学校からの依頼を受け、外国籍児童の学習のサポートをすることになった。西小学校区には地域ボランティアさんがたくさんいるため、その方々を活用し、少人数で学習支援を行おうと考え実施していたが、2年後からは外国籍児童に限定せず、今のよう形になった。
--------	---

活動名	放課後学習支援			
実施箇所名	西小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学習支援		
	開催日数等	月金11回 毎月1~2回	実施場所	会議室
	参加児童・生徒数	30 人	ボランティア数	15 人
	<p><概要・特徴></p> <p>元教員・地域のボランティアによる学習のサポートを目的とし、放課後、学校で宿題のプリントやドリルをしたり、音読や九九などを聴いてもらったりする。今年度からは、タブレットを使った学習にも取り組んでいる。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、1学期は、対象を3、4、5、6年生に限定し、2学期については、かけ算九九スタートする2年生も対象として募集の幅を広げた。 コロナ禍を考慮し、月曜日と金曜日の2グループに分け、1回の人数を15人弱の少人数で行うことで、きめ細かな指導を工夫した。 			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 少人数で支援をしたことで、個別の支援を適切なタイミングで行うことができ、子供たちの意欲向上につながった。 児童が、ボランティアの方と関わることで、コミュニケーション能力や自己肯定感が高まっていった。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> タブレット学習が進む中で、今後、学習内容や学習の仕方(タブレットor紙媒体)の工夫が必要になってくる。 自分から意欲を持って参加している児童は、成果が上がっているが、保護者の意向で参加している児童の学習への取り組み方に課題が見られる。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名 三島市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度 平成 27 年度



活動名	放課後学習(みしま寺子屋)			
実施箇所名	三島市立徳倉小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学習習慣と基礎学力の定着・地域の教育力向上		
	開催日数等	木曜日・21回	実施場所	徳倉小学校 音楽室
	参加児童・生徒数	17人	ボランティア数	9人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 算数の学力の伸びに個人差が開きやすい3年生を対象に、学習習慣と基礎学力の定着を目的に学習支援を行っている。参加児童は、保護者に活動の趣旨を説明し、募集した。学習ボランティアは、地域の大学生が5人、地域ボランティアが4人。地域学校協働本部が中心となって、寺子屋コーディネーター(教員OB)を配置することにより、地域住民や大学生が参画している。活動場所は、学習に集中できるように、冷暖房が完備された音楽室を使用し、活動時間は木曜日の5校時終了後、14時30分から約1時間行っている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 寺子屋コーディネーター(教員OB)が作成した算数テキストを使用し、どのページを行ってもよいとしている。パズルや数列などで何度も自然に計算する課題であり、楽しく取り組んでいる。 学習ボランティアが巡回して採点や支援を行っている。 			
	連携先	日本大学国際関係学部、常葉大学 等		
活動の成果	<p>・パズルや数列などで何度も自然に計算する課題であるため、算数に苦手意識が児童でも喜んで取り組んでいた。分からない問題があっても学習ボランティアにすぐに聞いて解決できることで自信につながっている。「できた」「わかった」という経験を積み重ねることで、算数嫌いになるのを防ぐことができる。保護者からも高評価を得ている。</p>			
課題等	<p>・学習ボランティアの獲得が課題である。近隣の大学がオンライン中心の授業となっている影響もあり、コロナ渦以前は20名以上の登録が年々減少している。地域学校協働本部に呼びかけを依頼するなどしているが、学習ボランティアの獲得のために、地域にもっと活動を知らせていきたい。</p>			
備考				
参考URL				

市町名 三島市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度 平成 27 年度



活動名	放課後学習			
実施箇所名	三島市立山田小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子供の学習支援・地域の人材育成		
	開催日数等	週1回・年間13回	実施場所	山田小 第1音楽室
	参加児童・生徒数	17人	ボランティア数	8人
	<概要・特徴>	<ul style="list-style-type: none"> 算数が難しくなったと感じている3年生の希望者を対象に、ボランティアの支援を受け「分かる！できる！楽しい！」を実感しながら学習する経験を積むこと、基礎学力、計算力の向上を目指すことを目的に実施。 参加する子供の下校時の安全確保のため、実施時間は木曜日の6校時に固定し、終了時刻が5、6年生の下校時刻と同じになるように設定。 		
	<活動上の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> 子供2人もしくは3人でチームを組み、各チームに1人担当のボランティアをつける形式で実施。マンツーマンに近い形での支援が可能となり、きめ細やかに子供の様子に合わせた支援を実施でき、子供の集中力や学習意欲を高められるようにする。 教材は、前学年の復習単元や該当学年の躓きやすい単元を中心に学習プリントを作成。約70枚のプリントをファイルにまとめておき、子供とボランティア（解答付き）に配布。どこから学習を始めてもよく、また、各自のペースで進めてもよいことにし、ファイルに綴じ込んだ頑張りカードにプリント終了日の日付を記入し、ご褒美シールを貼ることで学習進捗が確認できるようにする。 		
	連携先	放課後学習コーディネーター、地域学校協働本部コーディネーター		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちは、自分の担当ボランティアが決まっていることで安心して学習に臨み、学習意欲が持続した。また、回を重ねる毎にボランティアとの交流が深まり、「自分の先生」との触れ合いをととても楽しみにしていた。きめ細やかな支援を受けることで理解が深まり、算数学習に対する自信が付き、積極的に学習するようになったと保護者も我が子の変化を感じている。 ボランティアの方々も子供との交流を楽しみ、PTA主催の地域触れ合いイベントや農事体験活動の手伝いも引き受けるなど、学校の教育活動に対して協力的である。地域で温かく子供たちを見守ろうという雰囲気さらに広がっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、コロナで停止していたこの活動を再開させることや、これまで実施してきた形式から新しい形式へと切り替えることなど、前年度からの変更点が多かったため、事前打合せ会や教材準備、名簿作成など、学校主体で活動準備を進めることになった。次年度以降は、今年度の経験を生かし、コーディネーターやボランティアの方に準備段階から関わってもらえるよう進行していきたい。 年度当初の時間割編制の段階から、この放課後学習の活動場所や学校担当者の授業入りを調整しておく必要がある。（今年度はコロナ対応のため途中からの実施となり、一部時間割を調整した。） 			
備考				
参考URL				

市町名 富士宮市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯 指導員である佐野 仙子(さの のりこ)さんが、保育士としての経験を生かして、子どもや保護者に寄り添い、子どもの心の育ちや子育てをサポートしたいという強い思いがきっかけとなった。

活動名	放課後子供教室とんとん			
実施箇所名	富士宮市立貴船小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後の子どもの居場所づくり、子どもの発達支援		
	開催日数等	18日	実施場所	体育館
	参加児童・生徒数	約50人	ボランティア数	0人
	<p><概要・特徴> 子どもに自由に絵を描かせると、子どもは絵の中に自分の「心」を表す。放課後子供教室とんとんでは、子どもの表した絵(心)を評価せず、ありのままを受け入れることによって、子どもが心を「発散」し、「受容」された経験を得ることを大切にしている。子どもが「自分は自分でいいんだ」と思えるように、自己肯定感を高める一助のために活動している。</p> <p><活動上の工夫> ・一人一人の育ちの違いに配慮し、細やかな言葉かけに配慮している。 ・絵を描く子どもの姿、絵から表れる子どもの心を保護者に伝え、子育ての共感を大切にしている。</p>			
	連携先	富士宮市立貴船小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 活動日を楽しみにしている子どもが多い。 活動後、心を発散し、笑顔が見られる子どもが多い。 活動を積み重ねていくことによって、創造的な意欲を感じる子どもが増えてきた。 			
課題等	<p>子どもたちの不快に対する心のコントロールは未熟であり、子どもの筆先に表れるおどろおどろしさに対する心の発散が不十分である。一人一人の育ち違いや遅れに対する柔軟な声掛けやかかわり方が課題である。</p>			
備考				

参考URL

特になし

市町名	伊東市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 3 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	伊豆高原きらめきは平成15年4月に発足し、20年近く子どもから高齢者、障がい者まで地域福祉の分野で活動している。放課後子ども教室を実施する以前から、小学校や児童養護施設において絵本の読み聞かせや体験活動を行っていたこともあり、令和3年度から市の委託事業として放課後子ども教室を実施している。
--------	---

活動名	伊豆高原きらめき(なかよしの会)			
実施箇所名	八幡野小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子どもの自主性と創造性を育み、子ども教室が実施する体験活動の場で経験を重ね、学校生活にその成果をフィードバックする。		
	開催日数等	7日	実施場所	図工室・体育館
	参加児童・生徒数	169人	ボランティア数	5人
	<p><概要・特徴></p> <p>①自主性を重んじる方針から、子ども教室の名前、始まりと終わりの挨拶のルール等子ども達に決めてもらった。</p> <p>②プログラムの内容は、エコと自然、健康、防災、福祉、身近なものを使っての創作活動の観点から授業では経験できない企画を立て実施</p> <p><活動上の工夫></p> <p>①児童の着席順は、折り紙の番号で決め毎回異学年で着席。どんな人とも仲良くコミュニケーションが取れる工夫をした。但し年1回だけ好きな人と座っていいという日を設けた。</p> <p>②教室に入れない児童には、担当者を付けて廊下や図書室で参加してもらった。</p> <p>③45分前後で終わらせるため、教材の事前準備に時間をかけた。</p> <p>④手指消毒、検温記録、教室終了後の机、いす、ドアの消毒を行った。</p>			
	連携先	1高齢者福祉施設の指導員、市内に在住する絵本作家、楽器演奏者等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からは「子どもが放課後子ども教室の様子を詳しく話してくれるため親子の会話が増えた。」「本物に触れる大切さを知った。」「毎回異学年の児童と着席する仕組みが友達作りに役立っている。」等の声をいただいている。 従事スタッフからも「自主性が育ち、個性的な創作意欲の向上が見られるようになった。」「友達への気遣いを見せる子どもが増えた。」との声が上がっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> すべてを60分以内に終わらせる困難さとのせめぎ合いが続いている。空いているはずの教室や体育館が授業に使われていて、時間通りに準備ができないことがあった。各学年の終わりの会の時間がまちまちで、時間通りに始められないことがある。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名 富士市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度 昭和60年代以前



活動名	少年教育講座 みなみなんぼるす(スポーツ分野)			
実施箇所名	富士南まちづくりセンター			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学習機会づくり、地域の人材育成		
	開催日数等	各センター1回ずつ	実施場所	富士南まちづくりセンター
	参加児童・生徒数	15 人	ボランティア数	6 人
	<p><概要・特徴></p> <p>主に小学生を対象に必要な能力を養うことや、他の年齢層とのつながりを持つこと、また学校ではできない体験学習等を通じて、地域への愛着を養い、将来富士市を背負っていく世代の育成と生きる力を身に付けることを目的として小学校区ごとにスポーツ・料理・自然遊び・環境学習の4テーマで実施。本校区のスポーツをテーマとした活動では、ファミリーバ<活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童向けの講座で、地域のスポーツ事業を企画・運営・活動している地区スポーツ推進委員の方々に講師を依頼している。 ・委員の方々が得意な種目や地区で推進しているスポーツがある場合、その種目を教材として選定している。 ・概ね市内に26ある小学校区ごとで受講生を募集し、講座を行っている。 			
	連携先	地区のスポーツ推進委員		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の感想で「優しく教えてくれた」「話したことのない地域の先生に教わって楽しかった」などがあり、児童が楽しんで活動を行うことができ、また地区のスポーツ推進委員さんと地域の子もたちが関わる機会を作り出せ、まちづくり活動の一助となった。 ・活動を行っていくうちに、子どもたち同士の助け合いや譲り合いの場面を増やすことができ、異学年交流によるコミュニケーション能力と上級生のリーダーシップ向上、互いに思いやる経験を達成できた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年以前のコロナ禍前に比べて参加人数が減っており、実施可能人数に達せず中止となる校区もある。参加した児童へのアンケートでは参加者満足度は高く、内容に問題はないと感じているが、どのようにして楽しい講座であることを広報し、応募に結び付けられるかの検討・模索が必要である。 			
備考				

参考URL

社会教育課instagram : https://www.instagram.com/fuji_shakaikyouiku_official/?hl=ja

市町名 富士市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度 令和 4 年度



活動名	親子で楽しむ不思議な科学実験			
実施箇所名	天間まちづくりセンター			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学習機会づくり、地域の人材育成		
	開催日数等	5	実施場所	天間まちづくりセンター
	参加児童・生徒数	24 人	ボランティア数	3 人
	<p><概要・特徴></p> <p>理科(科学)離れが叫ばれる昨今、身近におこる現象をリアルな実験体験をとおして楽しく学び、日ごろから科学に対する興味関心をもつきっかけを作る。</p> <p>子どもだけではなく親が参加することで幅広い世代に科学に興味関心をもってもらうとともに、親子でのふれあいの機会を増加させる。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で参加しやすい土曜日午前に実施した。 ・講座開始前にリハーサルを実施し、安全に対する意識を共有するとともに講座をよりスムーズに進行できるようにした。 ・講座中は親子が一緒になって考え作業ができる時間を多くとり、各回、多くの実験に親子で挑戦してもらった。 			
	連携先	地区内で科学実験等の活動を行っている方々		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃参加の少ない父親の参加率が高かった。 ・回を重ねるごとに、親の関わり方に変化が見られた(子への言葉かけや手伝い等)。 ・「子どもが理科に興味を持つようになった」「講座を毎回楽しみにしていた」という感想をいただいた。 ・夏休みの宿題に応用したり、各自で興味を深める学びを続けたりしていた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの対象者に、情報を提供できるような広報の方法の模索が必要 ・今年度は親子ペアを想定して講座を企画したが、親1人子複数人でも参加できるような体制づくりが必要 ・3~6年生を対象にしたため、3年生には理解が難しい場面があった。 			
備考				

参考URL

社会教育課instagram : https://www.instagram.com/fuji_shakaikyoku_official/?hl=ja

市町名	富士市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度	昭和60年代以前
--------	----------



活動名	少年教育講座 田子っ子くらぶ(料理分野)			
実施箇所名	田子浦まちづくりセンター			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学習機会づくり、地域の人材育成		
	開催日数等	各センター1回ずつ	実施場所	田子浦まちづくりセンター
	参加児童・生徒数	20人	ボランティア数	8人
	<p><概要・特徴></p> <p>主に児童を対象に必要な能力を養うことや、他の年齢層とのつながりを持つこと、また学校ではできない体験学習等を通じて、地域への愛着を養い、将来富士市を背負っていく世代の育成と生きる力を身に付けることを目的として小学校区ごとにスポーツ・料理・自然遊び・環境学習の4テーマで実施。本校区の料理(食育)をテーマとした活動では、食の楽しさや大切さを知ってもらうため、ピザづくりを実践するとともに食に関する座学を実施</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童向けの講座で、地域の食育事業を企画・運営・活動している地区食生活推進員の方々と市職員の栄養士に指導を依頼している。 ・コロナの感染防止のため、児童が1人で楽しく調理可能なピザづくりで実施。ピザを焼いている時間に炭水化物(小麦粉)、タンパク質(ソーセージ、チーズ等)、野菜(トマト、ピーマン等)などの栄養素に関する勉強が出来る内容としているほか、規則正しい食生活や栄養バランスの講義を行っている。 			
	連携先	栄養士、地区の食生活推進員		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の食生活推進員さんが子どもを指導しつつ、児童を常にほめながら指導をすることで子どもたちの自己肯定感を伸ばし、家族、教師以外の大人との関わりを通してコミュニケーション能力を伸ばすことができた。 ・コロナ禍で学校での調理実習ができないなか、自分一人で自分の料理を作ることで子どもたちの生きる力を伸ばす内容となった。 ・児童の感想で「料理の大変さが分かったけど楽しかった」、「おかしやジュースばかりではダメだとわかった」「ほめられてうれしかった」など狙いに沿った効果が出ている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの対象者に、情報を提供できるような広報の方法の模索が必要 ・幅広い年齢層の子どもたちが参加しているため、調理器具の使い方や作業手順などを説明する際に、理解度に差が出てきてしまう。 			
備考				

参考URL	社会教育課instagram : https://www.instagram.com/fuji_shakaikyoku_official/?hl=ja
-------	--

市町名	富士市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 27 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	児童の確かな学力の育成を図ることを目的に、平成27年度から市内の他の26校と実施を始めた。
--------	---

活動名	ぐんぐん教室(放課後学習支援ボランティア)			
実施箇所名	富士市立富士川第一小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学習意欲はあるが苦手な内容があり、丁寧な支援を要する児童への学習機会の提供のため。		
	開催日数等	17回	実施場所	会議室
	参加児童・生徒数	24人	ボランティア数	3人
	<p><概要・特徴> 対象学年：3年生 実施時間：14:40～15:25 教科：国語・算数、基本的な学習態度 (学習の準備・片付け・あいさつ等)</p> <p><活動上の工夫> ・一人一人の学習の跡が残るように行ったプリントをファイリングしている。 ・単純な読み書き計算だけではなく、文章問題、文の読み取りなど様々な難易度のワークシートを用意している。 ・ボランティアの人数をある程度確保し(4～5名)、一人のボランティアに対して目の届く児童の人数にして、指導を厚くしている。</p>			
	連携先	特になし		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生までの学習の復習が確実にできる。 ・落ち着いた環境の中で学習ができるので、学習の習慣が身に付く。 ・「できる」ようになるので、自己肯定感があがる。 ・地域人材の発掘、有効活用の契機となる。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・消耗品の予算の活用方法に制限があるので、活動に必要なもの(シールや個人ファイル等)が購入できない。 ・もっと回数を実施したいが、割り当てられる報償費によって、年間の実施回数の制限がある。 ・必ずしも継続してやっていただけないと限らないので、ボランティアの確保が毎年課題となる。 			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年の方が困り感を持っている子が多い実態から、参加児童を3年生に限定しなくてもよいのではないかと考えている。 ・予算配当によって、実施回数が限られてしまうところを修正してほしい。 			

参考URL	http://www2.city.fuji.shizuoka.jp/~p-fuiikawa1/
-------	---

市町名	御殿場市
-----	------

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度	平成 24 年度
--------	----------



活動名	放課後子ども教室 学習教室 “ひがし”			
実施箇所名	御殿場地区コミュニティ供用施設			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	放課後等の子ども達の居場所づくり		
	開催日数等	年24回	実施場所	公民館
	参加児童・生徒数	10 人	ボランティア数	4 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が休みの土曜日に実施。 ・子どもの自主的な学習の支援・援助を行い、勉強する習慣をつける。 ・小学1年生から6年生まで参加できる。 ・「しずおか寺子屋」の大学生ボランティアが参画している。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の時間と遊ぶ時間を設け、メリハリをつける。 ・全員で対話する時間を設け、子どもたち同士でのコミュニケーションが生まれるようにしている。 ・家庭での自主的な学習態度や学習習慣を身につけさせるために、保護者ともコミュニケーションを取る。 			
	連携先	御殿場市立東小学校・御殿場地区コミュニティ供用施設		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「友だちと一緒に勉強するので、一人で勉強するよりも集中力がついたと思う」、「自らドリルを開き、頑張る姿にびっくりした」と保護者からの意見をいただいた。 ・継続して参加する子どもが多く、成長が見られる。 ・全学年の子どもが参加しているため、教え合って学ぶことができる。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・会場が東小学校から離れており、送迎も必須なので参加児童が少ない。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	裾野市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 4 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	平成27年度より、学校教育課の事業として、小中学生の基礎学力向上のための「学力向上ボランティア」事業を開始した。事業を引き継ぐ形で、令和2年度より、県の「しずおか寺子屋」推進事業補助金を活用し、「すそのん寺子屋」事業に切り替えて実施した。
--------	---

活動名	すそのん寺子屋			
実施箇所名	市内各小学校、中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域の教育力を活用し、放課後や長期休業中に学校や公民館等で小中学生の学習をサポートし、主体的に学習に取り組む習慣を身に付けることができるようになることを目指す。		
	開催日数等	週1回程度 長期休業中は5日程度	実施場所	各学校の教室等
	参加児童・生徒数	各学校 20~40 人程度	ボランティア数	各学校 3~5 人程度
	<概要・特徴> 子供たち自身が、学習したいもの(宿題やドリル)を持ち込み、自ら取り組む。それを地域の大人(学習支援員)が見守り、ともに考えたり、教えたりする。			
	<活動上の工夫> 長期休業中には、学習支援員として大学生や高校生の参加もあり、幅広い地域の方々の協力を得ることができた。			
連携先	学校運営協議会			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1回程度の定期的な開催により、子供たちが自主的、計画的に参加することができた。一人一台端末(クロームブック)を活用することができるようになり、学習の幅が広がってきた。 ・回を重ねるごとに、子供と大人の交流が生まれ、分からないことを気軽に教えてもらったり、いっしょに考えたりする姿が見られるようになった。 ・顔と名前が分かる関係ができ、学習支援にとどまらず、日常会話が生まれるようになっていく。 ・地域の大人からは、「学習支援だけでなく、子供たちとともに楽しめる活動もやっていきたい。」という気持ちも生まれ、地域としての新たな活動に広がりを見せている。 			
課題等	・次年度より、学校教育課から生涯学習課の事業として引き継がれる。地域主体の活動にするために、コーディネーターの育成、実施団体の設立等が地区ごとの課題となる。			
備考				

参考URL	https://www.city.susono.shizuoka.jp/soshiki/4/2/1/16267.html
-------	---

市町名	松崎町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 3 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	児童の学習習慣の確立と、異年齢との交流や、地域とのつながりを育むことを目的としている。
--------	---

活動名	まつぎき寺子屋			
実施箇所名	松崎小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学習支援		
	開催日数等	4日	実施場所	小学校
	参加児童・生徒数	35人	ボランティア数	10人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の長期休業期間を利用して、中高生のボランティアによって、1～4年生までの学習支援を行っている。地域の方にも支援員としてサポートに入ってもらっている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 普段、来ることのない休業中の学校に来て、中高生のお兄さんお姉さんから宿題を教えることで、児童の学習意欲の向上と、学習習慣の確立を狙っている。また、地域の方に支援員としてサポートしていただくことで、地域とのつながりを育むことが目的。将来的には、児童が中高生になったときに、ボランティアとして参加してもらえたらと考えている。 			
	連携先			
活動の成果	・人数規模として、子どもたち一人一人に対して、細かい対応ができています。			
課題等	・現在、夏季休業期間中に実施しているが、冬季の休業期間中や、放課後に実施を望む声もあるため、開催方法を検討している。また、合わせて対象学年を広げるかも検討中。			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名 函南町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 22 年度

立ち上げ経緯 地域の方々から「桑村小学校の子供たちの学習サポートをしたい」との申し出を受け、当時の学校長との話し合いを経て発足し、今日に至る。

活動名	桑村道場			
実施箇所名	函南町立桑村小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学校、学習支援・子供サポート		
	開催日数等	22日	実施場所	桑村小学校
	参加児童・生徒数	11人	ボランティア数	8人
	<p><概要・特徴> 地域の方々为主体となり、週1回放課後学習支援を行っている。開校式・閉校式には子供たちだけでなく、職員及び保護者も同席している。講師の方々も少しずつ入れ替わるなどして、組織としての活性化も図られている。</p> <p><活動上の工夫> ・子供たちの学習進度や学習理解の状況に応じて、個に対応した指導を積み重ねている。 ・一対一、もしくは一対二程度の人数比で、子供たちの学習を丁寧に見取り、学習内容の定着を図っている。</p>			
	連携先	鈴木 薫氏		
	活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちから「道場のおかげで勉強が分かるようになった」「丁寧に教えてもらえるのでよく分かる」といった声があがっている。少人数で関わってもらっていることで話を聞いてもらえるという安心感もてるので、子供たちの講師の方々への信頼は厚い。 ・保護者からも手厚く指導していただいていることに対し、感謝の気持ちをもっている。 ・職員も子供たちの学びの様子を記録簿を通して、情報共有できている。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・道場への参加を希望する子が多いが、個に応じた支援に力を入れているため、希望する子供が全員参加できる状況に至っていないこと。 ・希望する多くの子どもの期待に応えるため、地域人材の活用を活用し講師を増やしたいと考えているが、難しい状況にあること。 			
備考				

参考URL

市町名 函南町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



活動名	わいわい塾			
実施箇所名	函南町文化センター、西部コミュニティセンター、町内各所			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	子供の居場所づくり、地域の人材育成		
	開催日数等	ものづくり教室10回/年 運動教室15回/年 自然体験教室6回/年	実施場所	函南町文化センター 西部コミュニティセンター 町内各所
	参加数	約160 人	ボランティア数	8 人
	<p>町内在住の小学生を対象とした体験活動として、ものづくり教室、運動教室、自然体験教室を実施している。体験活動を通して、子供たちの自主性や個性を伸ばし、学校の枠を超えた仲間づくりやリーダー精神の育成を目指す。また、地域のボランティアを講師として招き、年間を通じて様々な内容を学ぶとともに、ボランティア講師とのコミュニケーションを図ることで、地域の教育力を育む場とする。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用することで、地元への愛着心を深める内容となるよう工夫している。 ・子供の外遊びの時間が減少していることを受け、令和4年度より自然体験教室を開始した。自然の中で体を動かすことで、子供の好奇心を刺激し、豊かな心を育むことを狙いとしている。 			
	連携先	ボランティア講師、ボランティアスタッフ		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭または学校以外での子供たちの安全な居場所を提供できた。 ・体験活動を通して、地域の方との交流を深めることができた。 ・町内小学校の児童を対象としているため、学校を超えた交流の機会を創出できた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・定員を大きく上回る受講希望者がいるが、ボランティアスタッフの高齢化や人材不足により、受け入れられる児童数が限られる。 ・実施したい活動内容があっても、ボランティア講師が見つからない場合がある。 			
備考				
参考URL				

市町名 清水町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



南小放課後チャレンジキッズの様子

活動名	放課後チャレンジキッズ			
実施箇所名	町内小学校(清水小・西小・南小)			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	放課後の子供たちの安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する。		
	開催日数等	各学校年間12回程度	実施場所	各学校 体育館
	参加児童・生徒数	各学校 約20人	ボランティア数	各学校 回/約5人
	<概要・特徴> 町内の小学1年生から6年生までを対象に、平日の放課後、各学校の体育館を利用して放課後チャレンジキッズを行っている。 町から委託を受け、清水町シルバー人材センターが主体となり企画・運営を実施している。			
	<活動上の工夫> ・パートナーシップ協定企業等のサポートにより運動遊びを主体に実施 ・清水町シルバー人材センター会員の参画により地域住民との交流を実施 ・放課後児童教室との連携を図り、希望する全ての児童が参加できるようにしている。			
	連携先	(公社)清水町シルバー人材センター・パートナーシップ協定企業等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流が積極的に行われている。 ・パートナーシップ協定企業等の継続的なサポート・運動指導等により運動能力のスキル向上につながっている。 ・子どもとスタッフと積極的な交流が信頼関係の向上につながっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する児童数が多いため抽選決定となっている。 ・学年や個々により体力等に差があり、暑い時期は特に熱中症への対処・対応が必要となる。 ・同じスタッフ等が運営に携わり活動は安定しているが、新規に参加を希望する清水町シルバー人材センター会員の人材確保が課題となっている。 			
備考				
参考URL				

市町名 清水町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



活動名	土曜日チャレンジキッズ			
実施箇所名	地域交流センター等			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	週末等の子供たちの安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する。		
	開催日数等	年間14回程度	実施場所	地域交流センター等
	参加児童・生徒数	約20人	ボランティア数	回/約6人
	<p><概要・特徴></p> <p>町内の小学1年生から6年生までを対象に、休日の土曜日、地域交流センター等を利用して土曜日チャレンジキッズを行っている。</p> <p>町から委託を受け、清水町シルバー人材センターが主体となり企画・運営を実施している。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な講師や指導者等のサポートにより運動遊び、軽スポーツ、バルーンアート、クリスマスリースづくりなどの体験教室を実施 清水町シルバー人材センター会員の参画により地域住民との交流を実施 			
	連携先	(公社)清水町シルバー人材センター・行政・ボランティア団体等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 異学年や学校区以外の児童同士の交流が積極的に行われている。 子どもとスタッフと積極的な交流が信頼関係の向上につながっている。 様々なことを体験することで苦手なことや得意でないことにもチャレンジすることができている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 希望する児童数が多いため抽選決定となっている。 同じスタッフ等が運営に携わり活動は安定しているが、新規に参加を希望する清水町シルバー人材センター会員の人材確保が課題となっている。 参加者主体のプログラム立案(自主性の強化)の実施 			
備考				

参考URL

市町名	長泉町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 17 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	少子化やテレビゲームの普及などにより、異なる学年間の交流機会や外遊びの機会が減少しているため、放課後の子どもの居場所づくりを目的として開始。また、地域の教育力向上のため、地域住民が子どもたちのために企画・運営する事業となった。
--------	---

活動名	長泉町放課後子ども教室（のびのびスマイル）			
実施箇所名	長泉小学校・南小学校・北小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子どもの居場所づくり・地域の人材育成		
	開催日数等	年30回程度	実施場所	運動場
	参加児童・生徒数	500 人	ボランティア数	45 人
	<p><概要・特徴> すべての小学校において、水曜日の放課後に安全な遊び場所を提供し、子どもたちが学年にかかわらず自由にのびのびと遊べるようにする。また、地域住民を主体とした実行委員会が企画・運営し、地域ボランティアが参画することにより、子どもたちが遊びながら地域の人々とふれあえるようにする。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達の安全を考慮し、集団下校をしている。 保護者や民選委員からボランティアを募っている。 スタッフ会議を随時開催し、それぞれの校区と意見交換を行っている。 スタッフは研修会で新しい遊びや救急法などを学び運営に生かしている。 			
	連携先	地域学校協働本部・民生委員等・放課後児童会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 多様な世代との交流の場となっている。 小学生同士で異学年の交流ができ、自然と高学年の児童が低学年の児童をサポートしている。 子ども達の人とふれあう先が増えている。 色々な人と関わる機会ができ、地域の方へ自然と挨拶をする傾向がみられる。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 長く携わってくれている方が多く、スタッフの高齢化により、ボランティア不足が生じている。 放課後児童会との子どもの接し方、対応が異なることがあるため、方針を合わせる必要がある。 			
備考				

参考URL	https://www.town.nagaizumi.lg.jp/soshiki/syogai/3/2/4/8376.html
-------	---

市町名	長泉町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 5 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	地域と学校が手を携える方策の一つとして少年少女サークルが開始。学校が休みとなった第2土曜日、地域が子どもたちの居場所をつくり、学校では体験できない様々な活動の場を提供しようとしたことが始まりです。
--------	--

活動名	長泉町少年少女サークル（はぴはぴサークル）			
実施箇所名	コミュニティながいずみ、長泉町文化センターベルフォーレ、ウェルピアながいずみ等			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域の異年齢集団における仲間との切磋琢磨など豊富な体験の機会を確保する		
	開催日数等	毎月第2土曜日 (4、8月を除く)	実施場所	会議室、ホール等、グラウンド等
	参加児童・生徒数	128人	ボランティア数	約70人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生から中学生を対象に、4、8月を除き、月1回第2土曜日午前中に学校では体験できない内容を中心に活動を実施している。 毎年、3月の第2土曜日には、サークルフェスティバルを開催し、活動を発表する機会、サークル活動を体験する機会を設け、次年度以降、参加してもらえるよう周知活動も行っている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 親子での参加を可能とするサークルもあり、体験活動などを家族間で取り組むことで家族でのコミュニケーションの場となるようにしている。 子ども達のアイデアを尊重し、ボランティアはアドバイスを伝え、子ども達が思うように作品を作れるようにしている。 			
	連携先	地域学校協働本部		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 校区を超えた児童・生徒同士で交流する機会ができる。 地域の大人と子どもで交流することができ、子どもたちの成長を保護者や学校だけでなく、地域でも見守ることができる。 ボランティアスタッフの方達は、子ども達との交流の場は楽しく活力をもらう場となっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> サークル活動に長年携わってくれている方が多くスタッフの高齢化が進み、指導者としての活動をやめるか検討する人がでてきている。 参加者の全体が低年齢化してきていることから、スタッフの増員等、より細やかな配慮が必要になってきている。 			
備考				

参考URL	https://www.town.nagaizumi.lg.jp/soshiki/syogai/3/2/4/1988.html
-------	---

市町名	長泉町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 4 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	長期休業中の子どもの居場所づくりの一環として、また、長期休業中の子どもたちの家庭学習の習慣づけのために企画された。地域の高齢者や学生が支援員として会場に常駐し、学習支援をすると同時に、異世代間交流を促進することねらいである。
--------	--

活動名	ながいずみ寺子屋			
実施箇所名	コミュニティながいずみ(コミュニティセンター)			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子供の学習支援、地域の人材育成		
	開催日数等	年20日程度(長期休業中)	実施場所	和室・会議室・ホール
	参加児童・生徒数	38 人	ボランティア数	27 人
	<p><概要・特徴></p> <p>小学生高学年と中学生を対象に社会教育施設を会場に実施しており、宿題や自主学習をする場を提供している。長期休業前に学校を通じて広報し、参加者を募る。また、支援員の手配は地域コーディネーターが担っており、地域学校協働本部ボランティア名簿に登録している地域住民が支援員として参加している。夏季休業中の実施には、町内在住の学生もボランティアとして支援に入っている。基本の活動は各参加者の学習の見守りであるが、要望に応じて個別支援を行っている。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 退職教職員や海外在住歴のある方など、学習支援や英会話指導等が可能なボランティアがスタッフとして活動に参加した。 だれもが集合しやすい町の拠点となる図書館が併設されている社会教育施設を会場とした。 5人の地域コーディネーターが休憩時間の過ごし方を工夫し、体操や折り紙など、子どもたちが地域の大人と自然に交流できる時間を設けた。 			
	連携先	長泉町未来人(学生)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアスタッフの知識や経験を生かすことができた。 小中学生が多世代の地域住民と交流できた。 学生が支援に入ることにより、中学生は進路選択について話すなど、身近なロールモデルとの出会いの場となった。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 現在一会場での実施であるが、小学校区ごとに会場を設置できると、児童生徒にとってより参加しやすくなる。 支援員からは家庭での学習が難しい環境にいる子どもたちが、より気軽に参加できるようにしたいという考えがある。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	小山町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 29 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	小学校の余裕教室等を活用し、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所を設けるとともに、学習活動等を通し地域住民との交流活動の場を提供するため。
--------	--

活動名	放課後こども教室せいび			
実施箇所名	小山町立成美小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子供の学習支援、地域住民との交流		
	開催日数等	週2回・年60回程度	実施場所	空き教室
	参加児童・生徒数	11 人	ボランティア数	0 人
	<p><概要・特徴> 地域住民である教育活動推進員やサポーターとともに、算数検定や漢字検定を受けるための学習支援をしている。</p> <p><活動上の工夫> ・放課後児童クラブとの連携により、より多くの子どもたちに有意義な放課後の過ごし方を提供している。</p>			
	連携先	放課後児童クラブ		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅とは違う環境での学習であることから学習への積極的な取組姿勢が身についた。 ・検定に合格という目的に向かい集中して学習に取り組めるようになり、多くの子どもが合格している。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・活動時間が平日の夕方であるため、推進員やサポーターの人数確保が課題である。 ・児童数の減少により参加する児童の数も減少している。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	島田市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 19 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	平成16年度から平成18年度に文科省にて行われた「地域子ども教室推進事業」を受け、県からの委託事業として初倉公民館を活動拠点に「クラクラ初倉子ども教室」を実施。平成19年度からは「初倉放課後子供教室 フレンズクラブ」に名称を改め市の事業として実施している。
--------	--

活動名	初倉放課後子供教室 フレンズクラブ		
実施場所名	岡田公会堂		
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後等に子供達の安心・安全な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画のもと、子供達が心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。	
	開催日数等	年間22回	実施場所 岡田公会堂 等
	参加児童・生徒数	22 人	スタッフ数 12 人
	<p><概要・特徴></p> <p>初倉小学校と初倉南小学校の児童を対象に、5月～2月(8月を除く)の水曜日の16:00～17:20に、岡田公会堂を活動拠点とし、地域の方々の指導のもと、陶芸教室、和菓子作りなどの文化活動や、スポーツ活動に取り組む。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・編成された各班が当番となり、始めの会・終わりの会の進行や、その日の活動の感想を述べるなど、子供達の積極的な参加を促している。 ・放課後児童クラブや、地域シニアクラブの方々との交流活動を実施し、子供同士や地域の大人との関りを深めている。 		
	連携先	放課後児童クラブ、シニアクラブ等	
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート調査の結果として、「新しい友達が増えた」「年上の子や年下の子とのかかわりや地域の方々とふれあえた」「今ではしない遊びや手作りおもちゃの楽しさを教えてもらい自慢していた」といった意見をいただくと共に、また参加させたいと好評をいただいている。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に従事するスタッフの高齢化が進みつつある。新たなスタッフの募集を公民館だよりやスタッフの人脈の中で探しているが見つからない。 		
備考			

参考URL	https://www.city.shimada.shizuoka.jp/kurashi-docs/hatukurahoukagokodomokyouyositu.html
-------	---

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 29 年度

立ち上げ経緯 県の委託事業として開始した。
4年目以降は市の事業として継続し、合わせて6年目となる。

活動名	しまだはつくら寺子屋			
実施場所名	初倉公民館			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子供の学習支援、地域の人材育成		
	開催日数等	水曜・冬休み	実施場所	公民館・小学校
	参加児童・生徒数	水曜：各校18人 冬季：延べ14人	スタッフ数	水曜：9人 冬季：9人
	<p><概要・特徴> (初倉小・初倉南小) 水曜日の放課後、3年生を対象に算数の学習支援を行っている。初倉小は初倉公民館、初倉南小は小学校を会場として各校11回実施している。 (初倉中) 冬休みを活用し、公民館を会場として5教科の学習支援を行っている。</p> <p><活動上の工夫> ・小学生を対象とした寺子屋は、寺子屋コーディネーターが児童の様子や学習の理解度を学校に確認し、学習プリントを作成している。 ・実施前後に支援員の打合せを行い、学習の様子やつまずき等を学校にも共有し、連携を図っている。 ・中学生を対象とした寺子屋は、地元の高校生や大学生が主に支援にあたり、将来を見据えた学習の場としている。</p>			
	連携先	初倉公民館、初倉小学校、初倉南小学校、初倉中学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象とした寺子屋では、個々の躰きに合った対応ができ、学力の向上が見られる。また、毎回同じ支援員が指導にあたっているため、支援員と児童の関係が築かれ放課後の居場所にもなっている。 ・保護者からは「家で自ら勉強する時間が増えた」「学校や家族とは別の立場で指導してもらえる場が貴重でありがたい」との感想があった。 ・中学生を対象とした寺子屋では、一人に一人ずつ支援員がつき、学習に関する質問のほか、進学や受験相談の場としても活用されている。 ・寺子屋に参加した学生が、卒業後は支援員として参加しており、学びの循環が生まれている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援員の人材確保が課題である。 ・保護者を巻き込み、家庭での学習につなげることを今後強化していきたい。 			
備考				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 3 年度

立ち上げ経緯

生徒が夏休みの宿題を進めたり、1学期の学習内容を質問したりすることで、2学期のスタートをスムーズに切ることができるようにしたいと考え、学校から依頼をした。

活動名	夏休み島一中寺子屋			
実施箇所名	島田市立島田第一中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	8月3日、6日	実施場所	島田第一中学校
	参加児童・生徒数	約300 人	ボランティア数	約50 人
	<概要・特徴>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方(元教員)と地元の高校生を講師に招き、宿題を中心に学習支援を行った。 		
	<活動上の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> 地域学校協働本部コーディネーターが中心となり、地元の高校生や地元に住む元教員に、中学生の学習支援をしてもらうように依頼をした。その結果、約50人のボランティアが、中学生の学習支援を行ってくれた。 		
	連携先	島田高校、島田樟誠高校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 参加した中学生からは、「数学があまり好きではなかったけれど、先生や高校生が教えてくれて、数学をどんどん進めることができました。数学がもっとできるようになりたいです。」「高校生の皆さんは教え方が上手ですごくわかりやすかったです。機会があればまた来てください。」といった感想が多かった。 高校生からも、「将来、教職に就きたいと思っていたから、教える予行練習になってよかった。」等、やりがいを感じてもらえる機会となった。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒からは、寺子屋の開催日を増やしてほしいという要望があるが、学校・地域の方・高校生の予定が合わないため、2日間の開催にとどまっている。 学習を支援してくださる地域の方が、まだ不足しているため、新規で見つけることが必要となっている。 			
備考				

参考URL

<http://1-ih.shimada.ed.jp/index.html>

市町名	焼津市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度	平成 19 年度
--------	----------



活動名	わんぱく寺子屋			
実施箇所名	静岡福祉大学			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	居場所づくり、体験・交流・活動の機会の提供		
	開催日数等	月1回・年8回程度	実施場所	食堂、体育館
	参加児童・生徒数	延べ122人	ボランティア数	32人
	<p><概要・特徴> 月1回土曜日の午前中に静岡福祉大学の大学生等が子どもたちの体験活動を支援している。</p> <p><活動上の工夫> ・参加する子どもの年齢が幅広いため、企画内容を学生スタッフで毎回検討している。</p>			
	連携先	静岡福祉大学		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する児童は、保護者とはちがう年齢の近い身近な大学生との関わりを通して、学校生活では体験できない遊び、学びの場を体験できる居場所の機会となっている。 ・運営支援する学生スタッフにとって、今後のキャリア形成や地域の児童とのふれあいを通して有用な活動となっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する子どもの対象が小学1年～6年等幅広いため、異なった年齢の子どもが楽しめる企画作りが課題となっている。 ・学生スタッフが小学生の発達段階を理解して、企画内容を検討する研修および指導が必要となっている。 			
備考				

参考URL	https://www.suw.ac.jp/news/info/38093.html
-------	---

市町名	掛川市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 元 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	城東中学校区内の3小学校の子どものための交流の場をつくるため。
--------	---------------------------------

活動名	城東学園わくわく学習会			
実施箇所名	城東中学校区子ども育成支援協議会			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子どもの居場所づくりや夏休み体験活動等を行うため。		
	開催日数等	1日	実施場所	大東北公民館
	参加児童・生徒数	27人	ボランティア数	9人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休みの一日を使って、城東中学校区内の希望する小学生及び園児が学習や体験活動を行う機会を設ける。城東中学校区出身の教員OBによる学習支援、ミニロボ教室、イラスト講座等多岐に渡る体験活動ができる。 中学生もボランティアとして参加。小学生の学習支援や活動の手伝いを行う。 公民館やまちづくり協議会の協力を得て教室を開催している。 令和4年度は家庭教育サポートチーム「つなぐ」とコラボレーションし、教室に子どもを預けに来た保護者を対象に、家庭教育サポーターによる子育てサロン(子育て相談)を行った。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 毎年夏に実施し、主な対象者は子どもであったが、新型コロナウイルスの影響で秋に延期となった際は、当初のプログラムを変更し、人形劇、手品など親子でも参加しやすいメニューにするなど臨機応変に対応した。 子ども向けのメニューだけでなく、「星座のおはなし」や「高天神のおはなし」など大人も楽しく学ぶことができるメニューを実施している。 毎年参加しても飽きないよう、同じ活動メニューではなく、様々なメニューを取り入れている。(イラスト講座、ミニロボ教室、人形劇、英語教室、音楽コンサートなど) 			
	連携先	公民館、地区まちづくり協議会、家庭教育サポートチームつなぐ		
	活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> スタートした年は、参加する小学校の児童数に偏りがあったが、回数を重ねるごとに3小学校の児童の参加人数が少しずつ増加した。令和4年度は、コロナウイルスの影響で夏休みの開催から秋の開催に変更したが、大盛況で、園児から中学生まで幅広い年代の子どもが参加した。 毎年取り入れている学習支援は、先生や保護者でもない地域の先生に見てもらふことで、参加者も多く、児童たちは真面目に取り組んでいる。 中学生ボランティアの中には、以前わくわく学習会に通っていた子もおり、活動の輪が広がっている。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 年々参加者も増え、募集など学校の協力もあり順調に来ているが、まだまだ認知度は低い。地域と学校が一体となってみんなで盛り上げるような雰囲気作りが大切である。 			
備考				

参考URL	city.kakegawa.shizuoka.jp/gyosei/docs/10910.html
-------	--

市町名	藤枝市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 19 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	子どもたちに伝統文化を継承したいと考えた、地域の茶華道の先生方で発足。
--------	-------------------------------------

活動名	藤岡子どもふれあい教室			
実施箇所名	藤岡自治会館、藤岡小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	居場所づくり、体験活動の提供、地域交流等		
	開催日数等	26回	実施場所	
	参加児童・生徒数	20 人	ホール、体育館	
			ボランティア数	人
	<p><概要・特徴> 藤岡小学校区の小学生を対象に土曜日の午前中、子どもたちが安全に安心して過ごせる居場所を確保し、地域住民が見守る中で体験活動や軽スポーツ、地域交流等の機会を提供している。 四季を感じられる季節行事（七夕飾り、月見団子作り、お正月飾り、七草粥）を取り入れ、子どもたちの豊かな心を育てている。</p> <p><活動上の工夫> ・地域の人と交流しながら伝統文化やマナー等を楽しく学べるように、多様な専門家を講師として迎え、体験型の講座を開催している。 ・異学年交流の場となるように、活動の中で高学年をリーダーにしたグループ活動を行っている。</p>			
連携先	自治会、シニアクラブ、小学校、外部講師			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や学校ではできない体験や地域の人との交流を通して、体を動かして遊ぶことが増えたり、挨拶をする習慣が身についている。 ・異学年交流を通して、上級生は下級生に教え、下級生は上級生をお手本にする中で、思いやりの心や協力する力が育まれている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生～6年生と一緒に活動するため、みんなが楽しめる活動内容にすることが難しい。 ・支援者の人材確保。支援者の高齢化がすすんでいるため、教室を継続していくためには後継者探しや、若い世代（中高生や大学生等）を巻き込んで活動していく必要がある。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	菊川市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 19 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	H16年度の「地域子ども教室推進事業」の開始がきっかけで、市内の3小学校にてモデル事業として開始し、H29年度までで市内全小学校での立ち上げが完了した。
--------	--

活動名	加茂小学校 放課後子ども教室			
実施箇所名	菊川市立加茂小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	健全育成、居場所づくり		
	開催日数等	9月～12月の間月2回程度 計8日	実施場所	教室・体育館・グラウンド
	参加児童・生徒数	56 人	ボランティア数	14人(うちコーディネーター1人、教育活動サポーター3人)
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つのテーマ(例:バドミントン、おりがみ、剣舞など)ごとに、場所、参加児童および見守るスタッフ(講師)を分けており、クラブ活動のような形式になっている。 ・令和4年度は、つなぎおりづる、クロスステッチ、ラッピング、剣舞、バドミントン、外遊びの6種類の活動を実施。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士のトラブルが発生した場合は、学校に相談しアドバイスをもらっている。 ・安全管理上の問題がある場合、主催課である社会教育課の職員も現場での活動に加わるようにしている。 ・運営スタッフは、主に同じ小学校区に住む方々であるため、本事業以外でも交流がしやすく、「地域ぐるみでの子育て」に繋がっている。 			
	連携先	主に地域のシニア層		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「他学年との交流」、「異世代間での交流」および「時間をかけてひとつのことに取り組む」機会を与えられている。また、地域文化の継承にも繋がる。 ・一部の活動の成果は、地区のイベントにて発表している。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・【スタッフの量的・質的不足】高齢化などによる地域スタッフの不足と、あくまで地域の方々であるため、トラブル時に子どもの叱り方が分からない等の困り感がある。 ・【安全管理】「帰宅時に大人の付き添いがないこと」「明確なスタッフ人数および児童の定員の規定がないこと」等、児童クラブとは異なる取り扱いに、学校や保護者から不安視の声がある。また、昨今の置き去り事件等で、子どもの安全管理に求められるものが変化するなかで、スタッフ側の認識や対応をアップデートさせることにも苦慮する。 ・【学校の負担】「施設・備品の貸し出し」「申込書・保険料の回収」「児童特性などに関するスタッフからの相談対応」等の学校側への負担が生じるため、実施に関して学校の理解が得られない場合もある。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	牧之原市
-----	------

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度	平成 18 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	当時の市長マニフェスト(教室で無料学習塾 ～放課後、希望者に補習を行い、わからない子どもをなくします。教師OBなどで組織されたNPOに委託します～)により事業化した。
--------	---

活動名	牧之原市放課後学習支援			
実施箇所名	市内各小・中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学習支援、居場所づくり		
	開催日数等	小学校：週2回、中学校：週1回	実施場所	各校空き教室
	参加児童・生徒数	延べ3500 人	ボランティア数	人
	<p><概要・特徴> 学習状況に不安のある児童生徒を対象に、放課後に基礎的な内容を中心とした学習支援事業を行っている。学習支援員は現在14名で対応している。</p> <p><活動上の工夫> ・児童生徒一人一人の課題に応じるために少人数指導をしている。</p>			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援事業を行うことにより、子どもたちの基礎的・基本的な学習内容の理解が進んだ。 ・少人数のため、一人一人のつまずきを的確に捉えた指導ができる。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任との連携方法や保護者との関わり方が課題となっている。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	吉田町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 30 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	平日4時間授業日の増加に対応し、児童が安全で安心できる活動拠点を確保するために事業を開始した。
--------	---

活動名	どんぐり教室			
実施箇所名	吉田町立中央小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後の居場所づくり、体験活動の提供、地域コミュニティの充実		
	開催日数等	年間30日程度	実施場所	学校体育館
	参加児童・生徒数	120人程度	ボランティア数	20人程度
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 平日4時間授業日の放課後に、地域住民が学校の体育館を利用して、体験活動の場を提供している。 放課後児童クラブに在籍する児童を含むすべての児童が参加できる。 参加料なしで参加できる。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 季節行事や農業体験など、多種多様な活動を取り入れている。 地域住民が主体となり、活動の計画や準備をしている。 			
	連携先	NPO法人eとこ吉田		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 子供が様々な体験をすることで、豊かな人間性の涵養につながっている。 保護者が安心して子供を預けることができる場所となっている。 地域住民と子供が交流することで、地域コミュニティの充実が図られている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 参加する子供の把握や保護者との連絡に手間がかかる。 活動の中心となるコーディネーターの育成をしていく必要がある。 新たなボランティアを確保する必要がある。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	吉田町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 3 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	平日4時間授業日の増加に対応し、児童が安全で安心できる活動拠点を確保するために事業を開始した。
--------	---

活動名	住吉のびのび教室			
実施箇所名	吉田町立住吉小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後の居場所づくり、体験活動の提供、地域コミュニティの充実		
	開催日数等	年間30日程度	実施場所	学校体育館
	参加児童・生徒数	90人程度	ボランティア数	10人程度
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 平日4時間授業日の放課後に、地域住民が学校の体育館を利用して、体験活動の場を提供している。 放課後児童クラブに在籍する児童を含むすべての児童が参加できる。 参加料なしで参加できる。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 季節行事や農業体験など、多種多様な活動を取り入れている。 地域住民が主体となり、活動の計画や準備をしている。 			
	連携先	吉田町シルバー人材センター		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 子供が様々な体験をすることで、豊かな人間性の涵養につながっている。 保護者が安心して子供を預けることができる場所となっている。 地域住民と子供が交流することで、地域コミュニティの充実が図られている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 参加する子供の把握や保護者との連絡に手間がかかる。 活動の中心となるコーディネーターの育成をしていく必要がある。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	吉田町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 元 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	平日4時間授業日の増加に対応し、児童が安全で安心できる活動拠点を確保するために事業を開始した。
--------	---

活動名	放課後わくわく教室			
実施箇所名	吉田町立自彊小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	放課後の居場所づくり、体験活動の提供、地域コミュニティの充実		
	開催日数等	年間30日程度	実施場所	学校体育館
	参加児童・生徒数	120人程度	ボランティア数	10人程度
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 平日4時間授業日の放課後に、地域住民が学校の体育館を利用して、体験活動の場を提供している。 放課後児童クラブに在籍する児童を含むすべての児童が参加できる。 参加料なしで参加できる。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 季節行事や農業体験など、多種多様な活動を取り入れている。 地域住民が主体となり、活動の計画や準備をしている。 			
	連携先	自彊わくわく教室(北区地域教育推進協議会)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 子供が様々な体験をすることで、豊かな人間性の涵養につながっている。 保護者が安心して子供を預けることができる場所となっている。 地域住民と子供が交流することで、地域コミュニティの充実が図られている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 参加する子供の把握や保護者との連絡に手間がかかる。 スタッフの高齢化が進み、新たなボランティアを確保する必要がある。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	川根本町
-----	------

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度	平成 28 年度
--------	----------



動物の骨や鹿角を使った工作

活動名	川根本町放課後子供教室(地域ふれあいスクール)			
実施箇所名	町内小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	居場所づくり、地域の人材育成		
	開催日数等	9月～2月 毎週水曜日	実施場所	余暇教室等
	参加児童・生徒数	(登録)53 人	ボランティア数	(登録)70 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供と地域の方と共通の体験をし、相互の育成を目的に町内4小学校にて様々な活動を行っている。9月～2月の毎週水曜日(休校日等は除く)で約20回の活動を行う。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、地域で活躍している女性猟師(農師)による鹿の骨・角を使った工作を行い、一つの命を最後まで有効活用する取り組みを行った。 			
	連携先	地元住民、企業		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と子供達が触れ合う機会が確実に増えることで、学校外でも地域と子供のふれあい(挨拶等)が増加していることにも繋がっている。 ・コロナ禍で作品をみんなで一つ作り上げることはできなかったが、個々の力で個性あふれる作品づくりができた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・子供に携わってくれる方々が高齢のため子供の動きに対応できない部分もあり、参加人数が増加するにつれ困難となる。 ・高齢化もあり、スタッフ確保が最重要課題である。また、次世代育成に移りたいが対象となる年代の方は現役で就労、子育てをしているため、困難を極める。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	磐田市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 29 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	地域社会の中で、子どもたちが安全で安心して健やかに育まれるように、子どもたちが地域の中で様々な人と関わりながら活動できる環境づくりを推進したり、保護者が就労等により風間家庭にいない児童に適切な遊びや学びの場を提供したりすることを目的に立ち上げた。
--------	---

活動名	国語・算数の学習活動の支援			
実施箇所名	中部小学校放課後子供教室			
活動の概要・特徴・工夫	目的	居場所づくり		
	開催日数等	年12回	実施場所	理科室
	参加児童・生徒数	20 人	ボランティア数	7 人
	<p><概要・特徴> 磐田市の放課後子供教室は、地域の住民等の参画を得て、子どもたちが放課後を安全・安心に過ごし、学習や体験・交流活動を行うことを目的としている。学校や地域の実態に応じ、国語・算数の学習支援、ライフスキル、英語、キッズアート、茶道、工作、手品、和太鼓、生け花、手話、運動の体験活動を放課後や土曜日、日曜日に行っている。</p> <p><活動上の工夫> ・国語や算数のプリントを複数準備し、子どもが自分の学習進度に合わせてプリントを選択して学習を進められるように工夫している。 ・子ども2～3人に対し、大人一人が学習支援をしているため、子どものつまづきや困り感に寄り添いながら丁寧な支援ができています。 ・1人1台端末を利活用しながら学習を支援している。</p>			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援により、子どもたちは学習に対する満足感、達成感を得ることができ、学習意欲を高めることができた。 学校の担当職員とコーディネーターが連絡を取り合い、活動のねらいを共有することにより、学習の質を高めることができた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターや活動支援員、サポーターが高齢化してきており、人員の確保が困難になってきている。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	袋井市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 2 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	平成14年から笠原小学校の課外授業で行われていた「和太鼓」を「放課後子ども教室」として実施している。
--------	--

活動名	笠原小学校放課後子ども教室		
実施箇所名	袋井市立笠原小学校		
活動の概要・特徴・工夫	目的	普段できない体験の場の提供、放課後の居場所	
	開催日数等	25日	実施場所 小学校体育館・コミュニティセンター
	参加児童・生徒数	28 人	ボランティア数 15 人
	<p><概要・特徴> 活動日：水曜日の1時間程度 活動時間：15時から16時（学校の日課によって変更あり） 活動内容：和太鼓の演奏 参加学年：4～6年生</p> <p><活動上の工夫> ・数年前の卒業生や昨年まで参加していた中学生にもスタッフとして参加してもらった。 ・夏や冬は冷暖房があるコミュニティセンターを利用。 ・活動中は常にスタッフが見守ることで、子どもたちが緊張感を持ちつつも、安心して活動に取り組んでいる。 ・地域のまちづくり協議会からの支援も受けるなど地域からの応援を受け、活動している。</p>		
	連携先	(笠原コミュニティセンター、自治会等)	
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年の子どもが参加することで、交流が図られた。特に上級生と下級生の間に「質問する」「指導する」という関係が生じ、関係が深まるとともに相互の学びにつながった。 ・スタッフ（地域の大人）と世代間交流の場となった。また、披露の際には、保護者が参加し、3世代交流が行われた。 ・イベントといった人前での披露があることで、子どもたちに普段あまり経験できない緊張感のある機会を提供できた。（令和4年度は「子供・若者育成支援強調月間静岡県大会」で披露。他には地域の文化祭など） ・地域の方に知ってもらえる機会もあり、自治会の方々に太鼓の運搬などの協力をいただくことができた。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・技術面（太鼓）を指導できるスタッフの確保。 ・太鼓の皮の張り替えに係る経費が大きい。（現在は当該地区のまちづくり協議会の支援を受け、少しずつ張り替えをしている） 		
備考			

参考URL	
-------	--

市町名	湖西市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



デカスポテニス体験している児童たち

実施開始年度	平成 23 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	地域の方々の協力をいただき、放課後の子どもたちが安全で安心して活動できる場所づくりを進めるため。
--------	--

活動名	鷺っ子 わくわく子ども教室			
実施箇所名	鷺津小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域の方々の協力をいただき、放課後の子どもたちが安全で安心して活動できる場所づくりを進めます。		
	開催日数等	10日/班	実施場所	鷺津小学校体育館 ほか
	参加児童・生徒数	20人/班	活動人員数	9人
	<p><概要・特徴> 放課後の時間にデカスポテニスや草木染め体験、紙漉きでしおりの作成など、多様な体験活動をA班とB班の2班編成で年間各10回開催しています。</p> <p><活動上の工夫> プログラムについては、スタッフへ届く児童の声が反映されるように努めています。 また、異なる学年の児童と一緒に活動しているので、作業等が安全に進められているか見守りながら活動しています。</p>			
	連携先	スポーツ推進委員、草木染め講師 ほか		
活動の成果	参加児童は、工作やスポーツ・文化活動など、学校の授業とは異なる様々な体験を通じて、異学年との交流や放課後の居場所づくりとして楽しい時間を過ごしています。			
課題等	コーディネーターやスタッフの確保。			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	森町
-----	----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	○
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



輪投げを楽しむ子供たち

実施開始年度	令和 3 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	学校統合により閉校となった三倉小と天方小の放課後子供教室を継続させるため、実施回数や実施場所を見直し、2地区の児童を対象に実施することとした。
--------	---

活動名	三倉・天方放課後子供教室			
実施箇所名	森町立森小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	放課後の安心安全な居場所づくり		
	開催日数等	年間35日	実施場所	旧天方小学校教室
	参加児童・生徒数	23 人	ボランティア数	4 人
	<p><概要・特徴></p> <p>森小学校に通う三倉・天方地区児童を対象に、毎週水曜日の放課後、地域の方の参画を得て実施している。参加児童は、自主学習のあと、自然の中で自由に遊んだり、ドッジボールなどのスポーツや工作等の活動を行っている。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス通学している児童が途中下車して教室に参加するため、スタッフがバス停まで付き添い、安全を確保している。 ・学校と連絡を密にし、当日参加児童の確認を徹底している。 			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的理由で下校後に友達と遊ぶことが困難な児童に、交流の場を提供できている。 ・地域の大人とのふれあいや異学年との関わりにより、社会性や思いやりの心を育てている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の指導者やボランティアの確保。 			
備考				

参考URL	
-------	--